校長室の小窓から・・・

－№15－　令和８年11月２日（月）　金光八尾中学校高等学校　校長　松井 祥一

チクチク言葉とふわふわ言葉

1946年（昭和21年）11月3日に日本国憲法が公布されたことを記念して、1948年に文化の日が制定されました。自由と平和を愛し、文化をすすめる日です。今年、文化功労者に選ばれた一人に、歌人の伊藤一彦さんがいらっしゃいます。伊藤さんは自身の研究だけでなく、若い人たちの短歌の会にも気軽に参加するなど、短歌の裾野を広げる活動をされています。伊藤さんの短歌からは、一言一言に命が宿っているかのように、言葉を大切にされていることが伝わってきます。



今日会いし人の心と言の葉を籠むる小箱をわが心（しん）にもつ

今日出会った人の心や言葉を、大切にしまっておく小箱を、私は心の中に持っています。

ひらがなのこころで問えばひらがなの新芽のごとき「ごめん」が返る

柔らかな心で相手に問いかけると、新芽のように素直な気持ちのこもった「ごめん」という言葉が返ってきました。

言葉は、人を励ますこともあれば、相手の存在や尊厳を深く傷つけることもあります。「きもい」「うざい」などの言葉は、たとえ軽い気持ちや冗談のつもりであっても、相手を深く傷つける行為であり、決して許されません。「言われたから言い返しただけだ」と開き直ることもありますが、互いに傷つけ合っても何一つ良いことはありません。

小学校の現場では「チクチク言葉」と「ふわふわ言葉」という表現が使われることがあります。「チクチク言葉」は心が痛むような人を傷つける言葉で、「あっち行け」「下手くそ」などが含まれます。一方、「ふわふわ言葉」は心が温かくなる言葉で、「ありがとう」「だいじょうぶ？」「すてきだね」などを指します。最近はSNSを通じた「チクチク言葉」が増えていると言います。SNSでは相手の顔が見えないため、言葉が暴力になっているという認識が薄くなっているのかもしれません。

大切なのは「ふわふわ言葉」を使うことだけではありません。穏やかな声の調子や表情も、安心感や思いやりを伝える大切な手段です。声の調子や表情が伝わらないSNSでは、自分が思う以上に相手を傷つけていることもあります。相手の立場に立って言葉を選び、互いを思いやることができれば、誰もが安心して過ごせる場になるはずです。

皆さんの教室ではどんな言葉が飛び交っているのでしょうか。